

Q：「認証かごしま材」と表示された木材を見かける機会が増えましたが、どのような木材なのでしょう？

A：「認証かごしま材」とは、外国産木材に対抗できる高品質な木材を生産し、県産材の利用を促進するために「県内で育成，加工された丸太，製材品の中から，用途ごとに品質，寸法，乾燥等が日本農林規格（JAS）に準じる品質を満たした材」を「かごしま材」と定義し，この製品を普及，定着させる目的で作られた制度です。

「認証かごしま材」の対象商品には，針葉樹構造材及び構造用集成材（柱，梁，桁），針葉樹造作材（壁板類），針葉樹下地材，単層フローリングがあります。これらは，JAS規格に準じた乾燥材であり，寸法や品質についてもJAS規格に準じた製品であることとなっています。

さらに，製品を製造する工場に対しても認証制度があり，県内の製材工場や集成材工場の中から，以下の条件を満たした工場を認証し，これらの工場から生産される高品質な製品を「認証かごしま材」としています。

【認証基準】

- ①構造材についてはJAS工場であること，それ以外についてはJAS工場と同等以上の製造及び出荷等の体制が整備されていること。
- ②品質の管理や検査技術者を有していること。
- ③品質，製造管理基準等があり，これに基づいて製品が出荷されること。
- ④産地証明の体制が確立していること。
- ⑤乾燥施設を有していること，もしくは協同で乾燥施設を利用する体制が出来ていること。

「かごしま材」の認証は，鹿児島県木材協会連合会内にある，かごしま材認証協議会が行っています。平成 15 年に認証制度が発足し，第一次の認定工場（9工場）を決定し，平成 16 年から「認証かごしま材」の生産が開始されるようになりました。平成 23 年 3 月末現在では，19 工場が認定されています。



「認証かごしま材」
のマーク

（地域資源部）

Q：環境への影響を評価する手法であるライフサイクル評価（LCA）の基本的な考え方について教えてください。

A：工業製品は，その原料採取から製造，廃棄に至るまでのライフサイクル（原料採取→製造→流通→使用→リサイクル・廃棄）の全ての段階において様々な環境への負荷（資源やエネルギーの消費，環境汚染物質や廃棄物の排出など）を発生させていますが，ライフサイクル評価（Life Cycle Assessment：LCA）とは，これらの環境への負荷を科学的，定量的，客観的に評価する手法です。

その評価手法については国際標準化機構（ISO）で規格化を行っており（ISO14040～14043），いわゆる LCA とは，ISO 規格に準拠したライフサイクル評価のことを指す場合が多く，一般的には次のような手順で行われます。

- ①目的及び調査範囲の設定
- ②インベントリ分析
- ③影響評価（インパクト評価）
- ④解釈

LCA は「製品」以外に，「サービス」や「製造プロセス」「廃棄物処理プロセス」等のシステムも対象となるため，環境負荷の少ない製品開発やシステム切替のための指標として活用されています。

LCA を実践するためには，各段階における環境負荷データを計算することになりますが，最近では，安価で使いやすい LCA ソフトウェア（MiLCA）も登場し，取り組みやすくなりました。

なお，LCA 的手法を用いた温室効果ガス（GHG）排出削減量の計算においては，オフセットクレジット（J-VER）制度や国内クレジット制度における GHG 削減量算定のための方法論（現在 J-VER 制度において 30 項目，国内クレジット制度において 50 項目を認証している）が公開されているので，これらを活用して算出することもできます。

（参考）ISO14040

「ライフサイクルアセスメント-原則及び枠組み」

（食品・化学部）